

令和6年度 自己評価及び学校関係者評価書

令和7年2月27日
函館市立弥生小学校

1 本年度の重点教育目標

『“心のつながり”を広げ、生き生きと活動する子』
キャッチフレーズ「やりとげた よろこび いっぱい 弥生小」

2 本年度の取組の重点

- ・弥生DXプロジェクトの推進…校務系・学習会DXの推進, ICT利活用促進 等
- ・令和の日本型学校教育の実現…個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実 授業改善の推進 等
- ・組織マネジメント, 学校改善の充実・推進…青柳ネット・地域人材の活用, 働き方改革の推進 危機管理の充実 等
- ・幸せを感じる学校の実現…教師, 児童, 保護者, 地域が相互に幸せになる学校の実現

3 自己評価結果に対する学校関係者評価

分 野	評価項目	自己評価結果		学校関係者評価		
		達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ	改善の方策の評価 主な意見（改善策など）	
①確かな学力を育む教育の推進	・「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、創意ある教育課程を編成、実施することができたか。	a	「弥生カリキュラム」を不断に見直し、弥生の子供の力を伸ばす授業改善に努める。	A	A	・架け橋期のカリキュラムについても、お忙しいとは思いますが一緒にお話できる機会があれば…と思います。
	・基礎・基本の定着を図る学習指導の工夫改善を推進することができたか。	a	「弥生スタンダード」に基づき、共通性を持った指導を展開すると共に、I C Tを利活用し、個に応じた指導の充実を図り、学力の定着に努める。	A	A	・子どもたちが身につけている ICT の技がたくさんあり感心させられました。
②豊かな心を育む教育の推進	・学校の教育活動全般を通して、道徳的な判断力や実践力の向上が図られているか。	b	積極的にいじめを認知する中で、道徳科を中心に授業改善に取り組み、自らを見つめ直し、子どもが多角的多面的に考え、よりよく人と関わる力の育成を図る。	B	B	・体験や、様々な立場の人から直接話を聞ける場を多くしていくことも大切なのではと考えます。 ・学年に関係なく声を掛け合う学校の雰囲気が良いと思います。 ・いじめる人、いじめられてる人にはそのことに対する温度差がある。デリケートな部分でもあるので対応は難しいと思うが逃げてはいけないと思う。 ・「自分がされていやなことをしない、言わない。」を学校全体で取り組んでいる。登校時も遅れている下級生を上級生がサポートするなど道徳実践が見受けられる。 ・限られた場面での見聞しかないが先生方の努力が結実しているように思えました。
	・コミュニケーションの基本としての挨拶や返事などを通し、公共性、社会性を育むことができたか。	b	挨拶の励行を基に友達との協働的な学習など人との関わりを通して、よりよい人間関係を築こうとする意識の向上を図る	B	B	・挨拶ができる子が多く、人の話に耳を傾けることができる素直さがあるように感じています。これからも児童館では小・中学生の成長を見守りたいと思います。 ・「なぜ挨拶が必要なのか」を地域づくりの視点等からも分かりやすく伝えていくことが重要だと考えています。 ・学校に行くと、積極的に挨拶してくれる児童がたくさんいると思いました。 ・挨拶は基本的、社会人になっても1番に絶対必要なものでもあります。 ・来校者や地域の見守りの方々へもあいさつする姿が見られた。 ・全ての学校で訪問時にはすれ違った際に生徒・児童が必ず挨拶してくれるのでとても気持ち良いです。 ・限られた場面での見聞しかないが先生方の努力が結実しているように思えました。

③健やかな体を育む教育の推進	望ましい生活習慣の定着や健康や体力向上を図る活動を推進することができたか。	a	「弥生カリキュラム」「体力向上プラン」をもとにした教科等での指導の充実を図るとともに、家庭、地域とも連携し、体力向上に努める。	A	A	
	自らの命を守り、健康な生活を送る力を身に付けさせることができたか。	a	危機管理の重要性を全職員で共有し、継続的な取組を通して子供たちに生命尊重の意識を身に付けさせることに努める。	A	A	
④学校における指導体制等の充実	学校教育目標の実現に向け、教職員が一丸となって子供たちの教育に携わっていたか。	a	学校経営ビジョンの共通理解に基づいた全教職員による学校経営参画意識を基盤に教育活動の更なる充実を図る。	A	A	
	教職員は心身ともに健康で意欲的に子供たちの指導にあたっているか。	b	業務改善や校務のスリム化を更に推し進め、子供と向き合う時間の確保に努める。	A	A	・教職員の働きがいを高める取組を期待します。
⑤家庭・地域と連携・協働した教育活動の充実	コミュニティ・スクールと連携した取組を行い、家庭・地域と一体となった学校運営を推進できたか。	a	青柳ネットを中心に、地域の人材等を効果的・積極的に活用した学校運営が推進できるよう努める。	A	A	
	育てたい子供像を、学校・家庭・地域が共有し、共に子供たちの教育に携わっていたか。	a	学校便りや安心メール等を活用して保護者や地域に情報を発信し、家庭や地域とともに、学校教育を推進することに努める。	A	A	・バス教室で低学年の児童が楽しそうに学ぶ姿が見られた。

■ 自己評価達成状況

a	ほぼ達成できた（8割以上）
b	概ね達成できた（6割以上）
c	十分ではない（4割以上）
d	達成できなかった（4割未満）

■ 自己評価の適切さ及び改善の方策の適切さにかかる評価

A	自己評価及び改善策は適切であり、取組を進めるべきである。
B	自己評価及び改善策は適切であるが、若干の修正は必要である。
C	自己評価及び改善策の方向性はよいが、若干の修正が必要である。
D	自己評価及び改善策を再度検討する必要がある。